

日本あちこち河川遡行記（第 232 回）

大阪 2-1.石川（その 4）、2-1-2.天見川（その 2）、2-1-2-1.石見川（その 2）

平成 31 年 3 月 22 日（金）晴一時曇り



00.今回調査位置図

石川水系最後の遡行に出かける。今日も早特のこだま指定席に乗車。春の行楽シーズンに入りこだまの指定席は満席である。自由席は空いているが指定席は旅行エージェンシーが大量に抑えているので若いグループ客で満杯である。席の周りは大きなカバンを抱えた者ばかりで一人客は当方だけかもしれない。それにしても僅か数日の旅なのに馬鹿でかいバッグを持ち込んでいる。バッグに旅をさせているように見える。

これまで歩いて来た石川、天見川、石見川、3川の合流点付近は見残してきた所なので今日一気に片付けるつもりで難波駅ホームに上がって行く。いつもより 1 時間遅いこだまに乗って来たのでホームに来ると急行のドアが閉まり発車して行く。ホームの上にはリニューアルされた高野山ケーブルを PR するポスターが吊るされ、お坊さんが「いらっしゃーい」と呼び掛けている。宗派は違うが極楽から阿弥陀仏一行がお迎えに来ているように感じる。「さー、これに乗って一緒に天空の極楽に参りましょう！」。



01.高野山ケーブルがリニューアルされお坊さんが誘う

4番線には10時発の特急「高野号」が発車を待っている。次の急行まで15分ほど待つことになるので未だ乗ったことのない高野号の試乗を兼ねて乗り込む。1両にユー達が10名乗っており、和人は8名で難波発車。途中の新今宮、天下茶屋から数名の和人が乗りほぼ和洋が一緒になる。今や高野山もユー達の目指す所なのだ。指定席制の特急の乗り心地は柔らかい。普通の車両は空から満員の状態まで幅広い荷重を想定したバネにしておくが、指定制の特急車は乗車重量が小さいのでバネを柔らかくすることが出来る。阪急、京阪の特急は指定制では無い（京阪の1両は最近指定席に）ので普通の電車と同じバネの硬さだろう。

29分の乗車で河内長野に着く。何回も乗った南海電車も今日が最後になるだろう。石川の未遡行区間の下流部の国道310号の「諸越橋」に向かう。高野線のガードに来ると「菊水町」と書かれた町名版が信号機に付いている。楠木正成と縁の深い河内長野らしい町名である。



02. 「菊水町」！楠木正成を思い起す町名だ

台地の上の駅前から谷底の橋に下り坂を杖を突きつき降りて行く。谷底に架かる橋は地形に合わせたアーチ橋である。アーチに最適なスパンと高さの川である。右岸側（東側）の川沿いの狭い道を南に向かうと赤さび色の「黄金橋」が架かっている。黄金ならぬ赤金橋だ。



03.河内長野にはアーチ橋が多く有る

04.「黄金橋」ならぬ「鉄鑄橋」だ

更に南にか細い道を進む。地形図にも道路地図にも記載されていない道で、事前にグーグルで見つけた道である。今日はそのグーグルの地図を印刷した紙を用意して来た。次の橋に来ると直ぐ南で石川に支流の「天見川」が合流している。橋名は当然「落合橋」である。



05. 右から「石川」が、左から「天見川」が合流

06. 合流点の橋名は当然「落合橋」でしょう

川沿いの道が無くなり一旦台地の上に上がりマンションの周りぐるりと回って川に降りて来る。台地の間を溪谷状に流れる地形に建物が密集している姿は珍しい景色である。南から流れていた川はV字形に北からの流れとなる。



07. 川の状況と周りの状況が合わないな一

川沿いに道が無いので狭い道の橋を渡り台地に再び上がり高野線の踏切を渡る。北に進み次の橋を越えると直ぐの三差路を西に向かう。曲がると景色が一変する。北から来た道が西に曲がる道は「高野街道」だったのだ。造り酒屋の蔵元が誘うので中に入る。遡行の楽しみの蔵元訪問である。グーグル地図には「天野酒」と記入されている。やや甘口の吟醸酒と蔵元製造の生姜の佃煮をお買い上げして歩きを再開する。



08. 「高野街道」に入ると景観が一変



09. 蔵元が誘うので中へ



10. 各種酒がズラリと並ぶ



11. この蔵元の建物は登録有形文化財だった



12. 道の両側の建物は蔵元の物

道を西に進むと街道は直ぐに橋を越えて南に向かう。橋際には石川の大和川との合流点からの距離標が立っている。ここは丁度17キロ地点なのだ。



13.大和川合流点からの距離標識がここにも有るぞ

幾分川沿いに平地が現れ道は川沿いになる。西に進むと瀟洒な地蔵堂が桜の木の下に有る。何故か傍には郵便ポストも有る。願いはポストにどうぞお入れください。ミニ公園に面白いポスターを見つける。大阪府の蔵元が一堂に集まり1パイ100円で飲み比べができる催しの案内である。大阪サミット協賛の企画で首脳が一堂に集まっている。



14.川沿いに地蔵堂が桜の下に、なぜか横にはポストが

15.面白いポスター発見、行きまへんか

見残した最後の橋を診てUターンし来た道に戻る。蔵元の先まで戻り突き当りを右に折れ再度橋と踏切を越える。そのまま南に進み次の「天見川」の見残

し区間の下流側の橋に向かう。二番目になる橋を越え東に進みショッピングセンター入り口に架かる「喜多畑橋」を見る。すぐにUターンして来た道に戻る。再度二番目の橋を渡り今度は天見川沿いの道を南に向かう。台地の端っこの道と川面とは10mほどの高低差が有る。それにしてもどの川も屈曲が激しく右往左往、上下をさせられる。



16.天見川を上流に進む

左岸側の道を進み市道橋「こもん橋」を渡り左岸側に移り南に進むと対岸の道路と高野線が廃川となった溝に橋が架かったままになっている。地形図は勿論、道路地図にも記載されている川と橋であるがグーグルには載っていない。つい最近廃川になったようである。蛇行する川の凸部をショートカットしている。



17.かつては曲がりくねった川をショートカットした名残が

更に進むと川は大きく回り込み左岸側から右岸側に橋を渡る。マンションの北側を回り込み川に戻り高野線の下を潜る。高野線の橋の塗装履歴板には「第二天見川橋梁」と書かれている。先ほど見た空川の橋が第一なのだ。橋の西側の両岸には単線時代のレンガ造りの橋台が残っている。塗色は鉄道橋には珍しい色である。



18.単線時代のレンガ造りの橋台が残っている

川沿いを西に進むと高野街道に再会し、街道が川を越える「三日市橋」を見る。再び川沿いの道が無くなり仕方なく街道を北に向かう。街道の東側に小さな木造二階建ての交番が建っている。建物の解説柵が横に有る。この高野街道を歩くのも面白そうで一度通して歩いてみたいものだ。



19.大正時代の交番が保存されている



20.交番の歴史を解説

100mほど進み直ぐ西を通る国道371号に足先を変え今度は南に進む。「新三日市橋」を越え100mほど進み三差路を右側に折れ川の方に向かう。川に出合い橋を渡り今度は左岸側を上流に向かう。天見川に石見川が合流する地点から今度は石見川の方に向きを変える。再度高野街道に來ると「高野山女人堂江八里」と彫られた石柱が立ち、その前に解説板が有る。ここが大坂と高野山と

の中間点で、どちらもここから8里と書かれている。塚から高野山までにこの1里塚が残っているようだ。



21.長野は大阪と高野山の丁度中間点なのだ

22.高野山までここから8里だ

川沿いに道は無く複雑にジグザグに川に付かず離れずに上流に向かう。府道214号を東に向かうと川の両側に山が迫り、その山には住宅がびっしりと建っている。1車線となった薄暗い谷間の府道を進み、東からの流れの川が90度曲がり北からの流れとなる所に架かる府道橋の「葛野橋」を見て三度目のUターンをして来た道に戻る。ここから先の溪谷には先日帰路についた観心寺まで橋が無いので省略する。

緩い坂道をどんどん進むと溪谷の川沿いに庭園らしきものが広がる。傍にはかつては料理旅館だったような建物がある。「東片添」地区まで戻ってくると「方添」と建物一面に大きく書かれた小屋が目につく。祭りに使用する地車の格納庫のようだ。それにしてもでかい文字だなー。



- 23.「石見川」の溪谷にかつての庭が
残っている
- 24.地車保管庫の建物一面に文字が！

三日市駅前まで戻ってくるとコンビニがあるのでトイレ休憩に立ち寄る。距離計を見ると10キロほど歩いたようで、あと天見川に未踏の橋が数橋あるが膝のことを考えここが潮時として打ち切ることにする。向かい側の三日市駅に向かい帰路に付く。これで大和川最大の支流「石川」水系の終わりとする。

本日の歩行距離：10.2km。調査した橋の数：30。

総歩行距離：10,339.4km。総調査橋数：12,964。

使用した1/25,000地形図：「富田林」（和歌山6号-3）